

関ヶ谷自治会ホームページではカラーでご覧になれます

防災V G臨時総会に出席して

関ヶ谷自治会長 田崎幸雄

防災V Gは発足以来、早や4年9か月が経過。私も自治会役員になり、早や4年目です。私が自治会長として自治会全体を俯瞰し、先ず何よりも最初に感じたことは、この大きな関ヶ谷自治会の地域住民皆さんの安全安心な暮らしを、一体どの様にして守って行ったら良いのか？ということでした。

関ヶ谷自治会の一番大きな特徴、大きな問題は、超高齢化という現実です。

風光明媚、環境抜群の金沢区は緑も多く、海に面し、歴史文化の漂う地域です。そんな金沢区には、2つの大きな問題点があります。それは、高齢化対策、防災対策の2点なのですが、その2点は、関ヶ谷の問題点でもあります。

関ヶ谷自治会の高齢化の実状は、総戸数：1046世帯に対し、70歳以上の方が1053人にも上るのが現状です。自治会全体の暮らしを守る現体制としては、役員8名、地区長26名、班長93名の現体制が基本です。3名の地区長からなる防災部だけではどうにもなりません。どうしても100名近い防災V Gの力を仰ぐ必要があるのです。そこで、私としては、これまで2年半をかけて、自治会防災部と防災V Gの連携強化を図り、一体化の構築を目指し進めて来ました。お陰様で、防災V G皆さんの理解と協力も得られ、1年目には、「自治会防災指針」を策定。2年目には、発災時の「自治会災害対策本部設置要綱」を策定。また、「自治会防災会議」も発足。同時にまた、「防災だより」も発刊スタートし、定着させることが出来ました。

そして3年目の今年度は、防災V Gの皆さんが、これまで主要任務と位置づけしていた、発災時の安否確認については、自治会の地区長・班長さんに委任できる体制も出来て来たとの判断もあり、防災V Gとして、今後の新規取り組み案件として、「スキルチームの立上げ、体制構築」を実現させることになったとのこと。大変、有難いことです。本日の臨時総会、意味のある意義のある総会に行きましよう。

防災V G臨時総会開催 7月12日



防災スキルチーム発足に伴い臨時総会を開きました。スキルチームの紹介、金沢区防災ボランティアネットワーク代表 外山薫さんの災害地でのボランティア活動の話、最後に各スキルチームの分科会を設けました。

(内容は2面に)防火、情報・通信・電気、医療・介護、食料・物資、防災資機材の5チームで防災ボランティア95名の内60名の出席でした。今後の活躍が楽しみです。

釜利谷消防出張所 井上所長の講演

7月14日自治会館

身近な例の人家の火災発生での類焼状況と防火の方法をシミュレーションで説明してもらいました。具体的でわかり易い話で大いに参考になりました。

第3回スタンドパイプ消火訓練

7月22日奥座公園 40名参加

自治会館に備えられた第1号の消火器による初めての訓練です。19名いる防火スキルチームも先導として参加しました。スタンドパイプの自治会館からの搬入に5分、消火栓の開閉、放水、の参加者による繰り返し、そして終了後ホースを釜利谷消防出張所まで運び10mの高さの干竿で数日乾かし折りたたんで、自治会館内収容場所に格納しました。このように訓練準備支援、消火器保全は消火チームが行うことになるでしょう。

防火チームの19名の約半数が訓練後合会を行い意見を聞きました。ほとんど全員が訓練に開水止水係、連絡と補助係、放水係とありますが、大勢の訓練ではその1つの役割しかできません。全役割の体験を是非行わせてくれと要望が強くありました。これを受け防火チームの防火訓練を9月末まで行うことを消防署に要請しました。

参加者アンケートの一例
「百聞は一見に如かず」で大きさや扱い方、注意点などよく分かりました。日が経つと忘れるでしょう。やはり何回か経験することが大切だと感じました。散歩しながら、どこに消火栓があるのか確かめていきたいと思えます。

その他訓練の段取りで訓練者の整理の仕方でも案内版やマイク使用の提案がありました。また停電などで消火栓使用不可の時はどうなるなどの質問もありました。



奥座公園前消火栓を使用し公園から山側へ放水
スタンドパイプ訓練には常に消防署、消防団の支援を受けます。非常時は消防署の臨席がなくとも消火栓からの水は使用できますが、訓練等では消防署の臨席が必要です。

9月1日は「防災の日」!

御自宅の「防災「備え」のあゆみ」

あんしんカード」活用されていますか?

カードを配布して今年2年目になります。今年一度の見直しは9月1日の「防災の日」です。今年はいかがでしたか? 昨年より改善されましたか? ぜひチェックして記載してください。因みに、このようなデータがあります。「食糧・物資チーム」でカードの活用がどうか、アンケートを実施しました。

【サンプル数26件】実施月7月
備え十分—11件、備え普通—15件、備え不足—10件、備え無し—0件

サンプル数は少ないですが、関ヶ谷地区での防災の備え(自助)の状況がある程度反映していると思われれます。備え十分までの「のりしろ」は充分あります。「自分の身は自分で守る」ためにもぜひ「あゆみ」を進めてください。



7 : 2 : 1
自助 : 共助 : 公助

食と防災 第二回常備食品

常備品は、いざという時の大切な食糧になります。ふだん買い置きしている食品の数や種類を増やすなど、工夫してみましょう。また賞味期限もしっかり確認しましょう。

常備しておきたい食品

- ◇主食になるもの お米、パスタ、そば、うどん、餅など
- ◇そのまま食せるもの せんべい、クッキー、飴、缶詰など
- ◇乾物 切干大根、わかめ、ゴマ、高野豆腐、やき麩、ひじきなど
- ◇その他 粉ミルク、カップスノードル、インスタントみそ汁、塩、砂糖など

ローリングストック法

ふだん食べている食品を少し多めに確保して、賞味期限に近いものから消費し、同時に新しいものを補充していく方法です。わざわざ高価な非常食を買う必要はありませんね。
(冊子「食と防災」より抜萃)



防災ボランティア コーナー

会員数 95 名 (8/26 現在)

この9号から2面は防災ボランティア活動報告コーナーとします。一緒にやりませんか！会員募集中！自治会館迄ご連絡を！

防災スキルチーム：①防火チーム 19 名 ②情報・通信・電気チーム 15 名 ③医療・介護チーム 12 名

④食糧・物資チーム 38 名 ⑤防災資機材取扱チーム 12 名 7 月 1 2 日分科会の報告など

要援護者支援 防災ボランティア全員で対応(自治会組織と共に)

民生委員が携わっている要援護者の災害時安否確認そして支援を援助することから防災ボランティア活動を立ち上げました。

災害とは何か、また災害規模ほどの大きさのところからなのか、また支援者の安全はどのように守るか、要援護者のプライバシー保護、個人情報保護、また行政の提供する支援者リストとの整合性など今まで経験しなかった多岐に亘る問題を検討し、ボランティアとしてできることは何なのかの追求に長い時間を費やしました。

自治会との整合も進み、ボランティアとして自治会活動の一端として役割が確立してきました。まだまだ検討事項が多く残っていますが、ここにボランティアの皆様へ実行していただけること述べさせていただきます。(注) 防災の対象者は自治会会員を含む地区居住者です。

要援護者支援で防災ボランティアが行うこと

【災害時】 自分の安全が確保できたら、ただちに担当する要援護者の安否確認をし、確認状況による必要な支援を行う。

また災害時要援護者にも同様の対応をする。

【平常時】 民生委員と共に要援護者へのケアを行い、信頼関係を構築し、災害時支援が容易になるよう、また平常時の安心感を持ってもらうようにする。

【訓練時】 自治会訓練時の安否確認等では事前に要援護者を訪問し、さらに自治会居住者と共に全戸安否確認を行う。この際防災ボランティアメンバーの服装装備で活動する。(徳岡代表)

防災ボランティアグループ臨時総会に参加して

平成27年7月12日15:00～の臨時総会に出席しました。会長・ボランティア代表挨拶の中でも、防災・災害に備えて、自治会の意識の強さを感じました。さて防災ボランティアとは、強制されることなく(何かを)することを申し出ると、学んだことがあります。

私も「食糧・物資チーム」のお手伝いを希望したので参加しました。「被災地支援ボランティアから学んだ、防災・減殺活動」のお話の中で「自分が生きること」が大切と話されていたと思います。生きることによってボランティア活動ができるのではと思う。

その「生きること」→ 情報を知ることが大切。人間はどう生きるか生活の根本と災害に向けて自分たちが考えておくことも必要のようです。1週間分のお水・食糧・お薬等の用意をしておくこと。物資の提供は期待できない！！

私は「食糧・物資チーム」を希望しましたが、一番大切なチームで活動することになりそうです。食糧の確保・高齢者に向けた味付け等の炊き出しも考える必要性等、様々な、局面に戸惑いが待っているような思い！！ 災害に向けて

- 1) 自助—自分安全は自分で守れ(そなえよ・つねに)
- 2) 共助—地域住民との交流
- 3) 区・地方公共団体(あまり期待はできないと思う)

常に、訓練の必要性を感じました。関ヶ谷自治会のこれからの取り組みに災害に向けて「安全・安心に過ごせる街づくりを願っています。(小松)

防火チーム 総会時分科会とスタンドパイプ訓練を終えての会

1、今後の活動は関ヶ谷地区の強み弱みを踏まえた上で行う。

強み：道路幅すべて広い、消防車すべて通行可

弱み：川池など自然水がない。すべて木造住宅である など

上記の一覧表を整備したものが有ります。

2、スタンドパイプ訓練で防火チームは消火栓の開水止水、放水、連絡員のすべてを速やかに体験する。9月までに実施する。

3、地域内消火栓の所在場所を把握し新タイプは黒く塗る。

自治会内消火栓所在場所を防火チームに配布する。(萩尾)

食糧・物資チーム 臨時総会に参加して

防災ボランティアとして登録はしていましたが、今迄土曜日の集会が多かった事もあり、あまり活動に参加出来ませんでした。この日はとても暑かったのですが、沢山の方がいらして、皆様の熱意に驚きました。5つのスキルチームによる、活動計画もしっかり立てられていて、万全の備えのように思われ、頭が下がります。

唯私など体力もなければ、年をとっていくばかりの者が、どれ程お役に立てるのかと「？」が浮かびましたが、いやいや意識を持ち続け、みなさんと手を取り合っていく事が大事なのではと、思い直しました。

金沢区災害ボランティアネットワークの外山薫氏のお話には、被災地支援に実際に立ち会った人でなければ言えない重い言葉で、現地の人の真に求めている事、心の内など報道記事ではわからないものがありました。

私達の「食糧・物資チーム」に参加して下さり、沸騰したお湯の中に入れて、ご飯を炊く「非常用炊き出し」のご紹介や普段から色々な乾物類を使って料理を作る作業を、皆で体験しておくといいい等、具体的なアドバイスに納得。無理をせず、出来る範囲でついでまいりますのでどうぞよろしく。(中山)

防災・資材チーム 防災ボランティア資機材活動に参加して

今回の展開は、今までぼんやりと参加していた過去のボランティア活動とは異なり、5つの目標のいずれかに参加し、自治会の自助・共助活動に体を動かして行動・修得していくことになる。

ああ、こうだと頭と口で言い合うのは、余り得意でない。私には、防災資機材チームが一番向いていると思ひ参加した。集まってみると、なんと私より年上で元気な先輩諸氏も(・・と言っても総勢12人)、若い人ももっと居て欲しいが、それは、今後の課題として。維持・管理する機材を触ったり使ったりするのは、面白そうだし、それで自治会の・自助共助が出来るようになるなら、ごく僅かな時間をそれに充てるのも悪くない。やってみよう、やりながら考えよう。

(ちなみに私の一か月の起きている時間は18時間x30日=4,800時間一月に2時間使っても、たった0.4%・・)

私は、何でも、少しずつ、体を、口を使って、継続して生きる事を教養(今日用事がある??)としているので、防災資機材活動もこれに、加えることにした。活動の内容も日程もこれからで、しばらく流動的と思うが、私の感じでは月一程度の点検習得活動で汗して、一杯もしばしば交えて楽しくやれば、好いなど願っています。『資機材を防災資機材グループで一括管理』との考えもあるが、臨時総会後の第一回防災倉庫点検の後の、チーム内相談では速くチーム別の管理案を作成して、他チームと協議しようということになった。(富倉)

『防災部・防災ボランティアの今後の活動予定』

- 自治会防災訓練：9月12日(土)安否確認
- 防火チーム防火訓練 9月末まで
- 防災『備え。』のあゆみ：9/1「防災の日」に確認・記入
- 地域防災拠点訓練：12月5日(土)釜利谷西小
- 防災だより：11月15日予定

- アンケートの実施(11月)：民生委員・自治会の要援護者等の希望者登録調査。
- 各スキルチーム活動・打ち合わせ：9-11月
- 毎月開催：防災会議、防災ボランティア役員会
- スタンドパイプ防火訓練 10月以降